



中友会

[発行所]  
**中友会**  
 港区西新橋1-22-13  
 全日本中学校長会館202号室  
 東京都中学校長会事務局内  
 TEL 03-3504-8705  
 FAX 03-3504-8706

会則第2条

● 親睦  
 ● 互助  
 ● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>



## 人材育成と 内向き志向の若者

中友会会長 岡野 仁司

去る6月7日の第47回定期総会は私にとって会長職三年目の総会となりました。本年度の新会員は76名の方々ですが、公的年金制度が変わり、満61歳になるまで年金が支給されません。安心できる生活を営むために再任用で校長職等・公的機関などに務める生活設計にご苦労されたと思います。

ここ二、三年の日本社会は、官民ともに早いテンポで進化？していますが、良きにつけ悪しきにつけ、60歳代以上の者にとっては安心・安全とは言えない状況下に置かれています。今後も自信と矜持を持って「もの」を言い、地域社会・日本社会・国際社会においてシニアパワーを発揮していきましょう。

政府は日本を取り巻く危機的状況の中の一つに「グローバル化の進展」を挙げています。「ヒト・モノ・金・情報等の流動化や新興国の台頭等による国際競争力の激化、生産拠点の海外移転による国内産業の空洞化などの要因・背景により日本の

存在感が低下してきた。一方、日本が保持している、多様な文化・芸術・優れた感性、科学技術・ものづくりの基盤技術、勤勉性・協調性・思いやり、の心、基礎的な知識技術の平均レベルの高さ、人の絆などの多くの強みを堅持していくかが戦略的課題である」と。

現政権は世界で活躍できるグローバル人材の育成を重要政策の一つに挙げていますが、文科省は2012年度から「グローバル人材育成推進事業」で、大学生のグローバル力を徹底的に強化、推進する組織的な教育体制の整備を行う大学を支援しています。高校生に対しては、海外留学の促進、バカコレア受験の支援等の予算を組んでいます。

スマホ依存現象を嘆いていた矢先に、6月6日の新聞記事の中で、「学生食堂で異変、相席は嫌だ！テーブル席中央につい立てを設置」という見出しに眼が行きました。更に読んでいくと、学食に「ぼっち席」を設置した大学が増えているという内容です。「ぼっち」は若者言葉で、友人がおり、集団と一定の距離を置くという意味にも使われます。学食で相席を嫌がり「一人でも周囲の目を気にせず食事をしたい」という学生が増え始めたそうです。G大では今春、百席を「一人用席」

と位置づけて、図書館にあるような仕切り板をテーブル中央に設けたほか、窓際のカウンター席を設けたといえます。従来型のテーブル配置では相席を避けて、混雑時でも空席が目立つといえます。バーチャル・リアリティの世界にどっぷりと身を置いて生活している人の行動を分析すると、スマホを使う時は平たん道や階段で、食事・デート中、集団で会話中、お構いなしです。彼らがスマホで特定・不特定多数の相手とSNS、LINEなどを介してチャット・対話？に注意力を傾ける熱意はどのような意味を持つのでしょうか。私には理解できません。スマホ上では多くの人と繋がりたいという欲求を持ちながら、現実の生活では、孤独と静けさを求めるというのは…。前述の食堂で相席を拒む、電車内でも他人と離れた席に座りたい日本人は国際社会において自己主張、相互理解、思いやり等を発揮できるのだろうか？と自問自答している今日この頃です。

このような生活習慣、価値観が身に付いている若者をグローバル人材として育てて行くのは並大抵ではないと感じます。「グローバル」というのは、響きは心地よいが、国際社会で日本人としてのプライドと自信を持って相手と対話・交信・交流・議論をして自己・自社・自国の考え・要望・要求を伝えていくことができることだと思料します。

高校生や大学生が公務員や会社員となり、数カ年のスパンで上述のグローバルな資質を発揮していけるのか、いささか疑問です。教育現場の先生方の肩に重くのしかかることは明白です。